

2012 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	白川静記念東洋文字文化研究所
研究センター長名	加地伸行

I. 研究実績の概要 (公開項目)

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究センター設置時における研究計画書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうことができるだけわかりやすく記述してください。

立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所（以下「白川研」という。）は、白川静名誉教授（以下「白川教授」という。）の研究成果をもとに、広く社会一般に東洋文字文化の教育と普及をおこない、また学術研究の分野において東洋文字文化研究の振興と高度化を図ることを目的とし2005年に開設された。2008年には研究活動のより一層の活性化を目的とし、衣笠総合研究機構への再編を行い、2012年度で研究センターとしての設置年限である5ヵ年を迎えた。2013年3月22日の衣笠総合研究機構運営委員会で2013年度以降の設置期間の延長が承認され、次年度以降も新体制のもと東洋文字文化分野における研究の高度化及び教育・普及活動を目的とした様々な取り組みを行っていく。尚、2012年度の主な取り組みについては、以下の通りである。

1) 学術研究事業

① 白川文字学・漢字学分野における研究活動のプラットフォーム形成

国内における文字学・漢字学分野の若手研究者は少なく、また、同分野において拠点となりうる研究活動の場は極めて限られている。そういった現状において、白川研がイニシアティブを発揮し白川文字学・漢字学分野における研究活動のプラットフォーム形成に取り組んできた。2012年度は「漢字学研究会」が発足し内外の研究者を組織するとともに、若手研究者の育成にも取り組んでいく。また、研究成果発表の場として『漢字学研究』を創刊した。これらを基礎とし2013年度以降には同分野における国内トップレベルの論文が集まる仕組みを構築していく。また、2012年度は客員研究員の受入も積極的に行い研究所としての支援を行ってきた。

② 研究所所属の研究者による研究活動・学術論文執筆

研究所予算による研究費の配分を行うなど継続的に研究の支援を行ってきた。それに基づき、研究所所属の研究者による研究活動が行われ、学術論文の執筆・紀要への掲載、学術図書の出版等を継続的に行っている。尚、2012年度の論文・著書等の詳細については、「II. 研究業績」の通り。

③ 「漢字学研究会」の発足

2012年度に漢字学・文字学研究をテーマとした研究を実施する「漢字学研究会」が発足し、年間10回の定期的な研究会を開催してきた。白川文字学の継承と更なる発展を目的とし研究活動を展開している。2013年度以降も引き続き月1回程度の研究会開催を継続すると共に、研究成果を白川研発行の雑誌『漢字学研究』に掲載する。

④ 『漢字学研究』の創刊

2012年度に「漢字学研究会」の研究成果をもとに雑誌『漢字学研究』を創刊した。また、次号以降は研究所内・学内の論文等の掲載に留まらず、全国的に広く漢字学・文字学研究分野における投稿論文を募り、『漢字学研究』への掲載を行う。これまで国内において漢字学・文字学分野に特化した学術雑誌はほとんど発行されておらず、本分野における国内のプラットフォームを形成していくうえで画期的な取組みとなることが学外からも期待されている。

⑤ 『立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要』の発行

2012年7月に第六號を発行し、各論文は研究所HPでも公開している。

⑥ 『白川研究所便り』の発行

各種企画の報告やコラム、研究所における年間の活動報告等を掲載している。2012年7月には第七號を発行し、全号研究所HPにて公開している。

⑦図書出版

2012 年度に編集作業を行い、2013 年度内には平凡社より「白川静辞典（仮称）（研究所叢書五）」の出版を予定している。

⑧一般教育特殊講義『白川学の世界』の開講・学生を対象とした学習会の開催

2012 年度も一般教育特殊講義「白川学の世界」を開講した。本講義はリレー形式の講義となっており、白川文字学の概要について基本的な知識を学習することができる。また、研究所における教育活動の一環として有志の学生を対象とした学習会を開催している。

2) 文化事業

①立命館白川静記念東洋文字文化賞

2006 年度より東洋文字文化に関する研究、普及および教育活動等の奨励支援のため、優れた個人および団体の業績を表彰している。継続的に実施しており、2012 年度までに第六回までの表彰を終え、現在第七回の募集を実施しており、選考・表彰式を予定している。

②漢字探検隊

2007 年度より始まった「漢字探検隊」は、座学だけではなく、見学や体験を通して漢字の成り立ちとそのままになった自然や文化を学習する一般（子供向け・大人向けを実施）を対象とした、体験型漢字講座である。2012 年度も京都をはじめとし全国各地で実施し、毎回多数の参加者を集めた。

③創作漢字コンテスト

2010 年度より産経新聞社との共催で創作した漢字を募集し審査を行う「創作漢字コンテスト」を実施している。産経新聞紙面をはじめとするメディアで取り上げられるなど大きな社会的関心を集めている。年 1 回、開催しており 2013 年度で第四回を数える。

④漢字講座をはじめとする地方自治体及び学校・各種団体等との連携事業

福井県、草津市など漢字講座のための講師派遣や漢字探検隊の実施を通して、連携事業を行っている。特に白川教授の出身地である福井県とは様々な形で連携事業を継続的に実施している。白川教授の生誕百年を迎えた 2010 年度は、「文字の国・福井」を標榜し、県内外で催事や展示、講座開催など様々な活動がなされた。また、県教育委員会主催による「白川文字学指導者養成講座」、一般向けの「漢字文化講座」、児童と保護者対象の「親子ふれあい漢字教室」が開かれ、白川研より都度講師を派遣した。

⑤漢字教育士資格認定講座の実施

2011 年度に新たな事業展開として「漢字教育士資格認定講座」の開講を行った。本講座は白川文字学に基づく漢字教育の社会的普及と漢字教育者の養成を目的とし、本研究所の定める所定の講座を受講したのに対して、「漢字教育士」の資格認定を行う制度である。2012 年度は本学文学部、放送大学、福井県教育委員会、財団法人日本漢字能力検定協会（受託事業：2 年間 1,000 万円）の 4 機関において講座を開始している。また、2013 年 3 月より株 Z 会との連携事業としてインターネットによる漢字教育士資格認定講座がスタートした。

⑥復興支援事業

2012 年度に東日本大震災復興のため社会貢献プロジェクトとして「私たちの提案・漢字で元気に」と題し、被災地において「漢字あそび大会」、「漢字講座」の開催と教材の贈呈を行った。

⑦「白川静ことば抄」・「白川静字説抄」の連載

2010 年 10 月～2012 年度まで「白川静字説抄」として白川教授の字説の紹介とそれぞれの文字にちなんだコラムを 96 回連載してきた。2012 年度には「白川字説抄」をもとにしたコラムを福井県の地方紙である日刊県民福井に週 1 回のペースで連載した。（2012 年 4 月～2013 年 3 月）

以上のとおり、白川研は東洋文字文化分野における学術振興と白川教授の研究業績を顕彰する機関として大きな役割を果たしており、今後もより発展的な展開が期待される。これらの取り組みを基礎とし 2013 年度も活動していくとともに、確固たる研究基盤の確保を目的とした外部資金の更なる獲得を目指し、附置研究所化を視野に入れた研究活動の展開を研究所において検討していく。

尚、過去 5 ヶ年間における白川研の事業報告については別途衣笠総合研究機構に報告を行っている。

II. 研究業績 (公開項目)

1) 論文発表

①論文 (査読あり)

雑誌論文

1. 萩原正樹, 「国内所蔵稀見『詩余図譜』三種考」『風絮』, 9巻, pp. 1~45, (2013/03)
2. 萩原正樹, 「森川竹篔年譜稿(中)」, 『学林』, 56巻, pp. 60~117, (2013/01)

図書

なし

②論文 (査読なし)

雑誌論文

1. 「『乾隆四庫全書無板本』所収『江湖集』の鮑廷博校宋本識語について」, 『立命館文學』, 630, (2013/03), 依頼原稿
2. 芳村弘道, 「書評 住吉朋彦『中世日本漢学の基礎研究 韻類編』」, 『和漢比較文学』, 50巻, (2013/02), 依頼原稿
3. 芳村弘道, 「董康『書舶庸譚』九巻本譯注(五)」, 『立命館白川静記念東洋文字文化研究紀要』, 白川静記念東洋文字文化研究所, 第6号, (2012/07)
4. 萩原正樹, 「唐宋詞の名句—『草堂詩余』から」, 『アジア遊学 東アジアの短詩形文学』, 152, 69~78, (2012/05)
5. 石井真美子, 「『銀雀山漢墓竹簡〔貳〕』・『銀雀山漢簡釋文』簡番号対照表(二)」, 『学林』, 中国芸文研究会, 55, pp1-46, (2012/06)
6. 高島敏夫, 「読『釈南』」, 『立命館白川静記念東洋文字文化研究紀要』, 6号, (2012/07)
7. 大形徹・陳建民・横大路綾子, 「『漢字』という熟語は、いつ作られたのか」, 『漢字學研究』, 立命館大學東洋文字文化研究, 第一號, (2013/03)
8. 末次信行, 「殷代武丁期卜辭に見える「帝」と「下上」」, 『漢字學研究』, 白川静記念東洋文字文化研究所, 第一號, (2013/03)
9. 木村秀海, 「珉生三器釋讀」, 『漢字學研究』, 白川静記念東洋文字文化研究所, 第一號, (2013/03)
10. 佐藤信彌, 「引簋蓋」, 『漢字學研究』, 白川静記念東洋文字文化研究所, 第一號, (2013/03)
11. 齋藤加奈, 「克盃・克壘」, 『漢字學研究』, 白川静記念東洋文字文化研究所, 第一號, (2013/03)
12. 村上幸造, 「史密簋」, 『漢字學研究』, 白川静記念東洋文字文化研究所, 第一號, (2013/03)
13. 三輪健介, 「子犯鐘」, 『漢字學研究』, 白川静記念東洋文字文化研究所, 第一號, (2013/03)
14. 木村秀海, 「釋^叚 —藝の異體字—」, 『漢字學研究』, 白川静記念東洋文字文化研究所, 第一號, (2013/03)
15. 村上幸造, 「頼惟勤監修、説文會編『説文入門』」, 『漢字學研究』, 白川静記念東洋文字文化研究所, 第一號, (2013/03)
16. 大形徹・宮本徹・大西克也編, 「アジアと漢字文化」, 『漢字學研究』, 白川静記念東洋文字文化研究所, 第一號, (2013/03)
17. 齋藤加奈, 「阿辻哲次著 漢字學 『説文解字』の世界」, 『漢字學研究』, 白川静記念東洋文字文化研究所, 第一號, (2013/03)
18. 三輪健介, 「李學勤著、小幡敏行譯、佐野光一閱「中國古代漢字學の第一歩 古文字學入門」」, 『漢字學研究』, 白川静記念東洋文字文化研究所, 第一號, (2013/03)
19. 佐藤信彌, 「裘錫圭著、早稻田大學中國古籍文化研究所文字學研究班譯「文字學概要」」, 『漢字學研究』, 白川静記念東洋文字文化研究所, 第一號, (2013/03)
20. 横大路綾子, 「貝塚茂樹編, 「古代殷帝國」」, 『漢字學研究』, 白川静記念東洋文字文化研究所, 第一號, (2013/03)
21. 馬越靖史, 「貝塚茂樹著, 「中國古代史學の發展」」, 『漢字學研究』, 白川静記念東洋文字文化研究所, 第一號, (2013/03)
22. 丸山啓樹, 「落合淳思著, 「甲骨文字の読み方」」, 『漢字學研究』, 白川静記念東洋文字文化研究所, 第一號, (2013/03)

23. 武田秀夫, 「朱淵清著、高木智見譯, 「中國出土文獻の世界」, 『漢字學研究』, 白川静記念東洋文字文化研究所, 第一號, (2013/03)
24. 佐藤信彌, 「藤枝晃著「文字の文化史」, 『漢字學研究』, 白川静記念東洋文字文化研究所, 第一號, (2013/03)
25. 佐藤信彌, 「二〇一一年古文字學論著目」, 『漢字學研究』, 白川静記念東洋文字文化研究所, 第一號, (2013/03)

図書

加地伸行, 「中國論理学史研究—經学の基礎的探求」, 研文出版, (2012/9)

2) 学会発表

①海外での発表

なし

②国内での発表

1. 上野隆三, 「關於四川省廣元市鮑三娘墓的考察」, 「中国学と物質文化」国際学術学会, 京都大学, 2012/5/11
2. 芳村弘道, 「『乾隆四庫全書無板本』所収『江湖集』の鮑廷博識語について」, 国文学研究資料館 宋版研究会平成24年度第1回研究会, 2012/12/25
3. 芳村弘道, 「宋版《錦繡萬花谷》傳本考, 第二屆」, 中國古典文獻學國際學術研討會, 2012/04/27
4. 芳村弘道, 「全唐詩逸》成書以後在日本發現的唐詩佚存資料」, 東吳大學 國學講座, 2012/04/26

3) 省庁、学会、財団などの表彰

なし

4) 外部資金獲得(競争的研究費、共同研究、受託研究、奨学寄附金等)

1. 奨学寄附金 財団法人日本漢字能力検定協会
加地伸行(代表), 計600万円(直接経費540万円、間接経費60万円)
2. 受託事業 財団法人日本漢字能力検定協会(2011年-2012年)
「漢字教育士資格認定講座の実施」, 計500万円
3. 子どもゆめ基金 独立行政法人国立青年教育振興機構
「漢字探検隊(京都)」26万円
「漢字探検隊(福島)」32万7000円
4. 漢字教育士資格認定講座受講料・資格登録料, 計18万6000円

5) 特許

①出願

なし

②取得

なし

6) その他(報道発表、講演会等)

①報道発表

1. 「白川静の漢字学 古文字から見える世界」, 北海道新聞 日曜Navi, 1-2面, 2012/4/8
2. 「創作漢字 9月14日締め切り 応募要領」, 産経新聞, 24面, 2012/7/11
3. 「白川静記念東洋文字文化賞 嶺北養護学校が特別賞」, 日刊県民福井, 2012/7/7
4. 「書写授業で白川静賞・特別賞」, 福井新聞, 2012/7/7
5. 「古代文字 書で自分表現」, 読売新聞, 2012/7/7
6. コラム「白川字説抄」, 日刊県民福井, 2012/4~2013/3(週1回掲載)
7. 「第3回創作漢字コンテスト 伝統引継ぎアイデアをプラス」, 産経新聞, 16面, 2012/11/8
8. 「【イベント】「福島漢字探検隊~漢字あそび大会2012」を開催(7・8日:福島テルサ)」, 福島民友新聞, 2012/10/8

②講演会

1. 芳村弘道, 「陽明文庫の漢籍について, 陽明文庫講座 今にいきづく宮廷文化」, 2012/12/16
2. 芳村弘道, 「白川静先生の学問形成, 福井ライフアカデミー漢字文化講座『白川文字学を学ぼう』」, 2012/10/06
3. 萩原正樹, 「白川静先生の古典文学研究—詩経研究を中心に—, 福井県漢字文化講座『白川文字学を学ぼう』」,

2012/11/25

4. 萩原正樹, 「白川静先生の古典文学研究—詩経研究を中心に—, 福井県漢字文化講座『白川文字学を学ぼう』」, 2012/10/28

5. 萩原正樹, 唐宋詞名篇鑑賞, 中国理解講座, 2012/10/27

6. 萩原正樹, 唐宋詞—純粹なる抒情の世界, 立命館土曜講座, 2012/07/21

7. 高島敏夫, 「《詩経》の中の愛の表現」, 立命館土曜講座, 2012/7/7

8. 高島敏夫, 「白川静『甲骨金文学論叢』の言語学的意義」, 福井県生涯学習館, 2012/10/20

9. 高島敏夫, 「白川静『甲骨金文学論叢』の言語学的意義」, 若狭図書学習センター, 2012/12/9

10. 津崎幸博, 「白川静の漢字学」, 筑紫古代文字文化研究会, 福岡市, 2012/10/7

11. 津崎幸博, 「漢字と白川静」, 福井県教育庁・白川静会, 東京, 2012/11/23

12. 津崎幸博, 白川文字学研究会, 福井市, 2012/5/30・2012/7/31・2012/8/7・2012/9/26・2012/10/19・2012/11/28・2012/12/12・2013/1/23, (講師として参加)

13. 小寺誠, 「白川静の世界—漢字を楽しもう」, 神戸新聞社文化センター, 2012/4~2013/3 (毎月第1金曜日)

③その他

◆研究会

1. 漢字学研究会, 「新出金文輪読」, 関西学院大学池内記念館1階第1研究会室, 2012/4/21・5/19・6/16・7/28・9/29・10/20・11/17・12/15・2013/1/12・2/23

◆漢字教育士資格認定講座

1. 日本漢字能力検定協会受託事業「漢検漢字教育サポーター育成講座」, 大阪・東京, 2011-2012年度, 受講者118名

2. 福井県漢字学指導者養成講座, 福井県福井市, 2011-2012年度, 受講者36名

3. 立命館大学文学部「漢字教育士資格認定講座」, 京都衣笠キャンパス, 2012年度, 受講者約10名

4. 漢字教育士資格認定講座インターネット講座(Z会と連携), オンデマンド講義, 2013年3月~

◆第6回立命館白川静記念東洋文字文化賞

1) 教育普及賞: 蘇水(北海道文教大学外国語学部 教授), 『常用字解』の中国語版出版

2) 奨励賞山元: 宣宏(宮崎大学教育文化学部 専任講師), 秦漢時代の書体の諸相に関する研究

3) 教育普及賞特別賞: 福井県立嶺北養護学校(団体), 福井県立嶺北養護学校における「書」作品制作

◆研究所刊行物

1. 学術雑誌「漢字学研究」, 第一号, (2013年3月)

2. 立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要, 第6号, (2012/7)

3. 白川研究所便り, 第7号, (2012/7)

◆その他刊行物

1. 小寺誠, 冊子『漢字の疑問にお答えします』年3月(摩気小学校児童・教員・その他教育関係者・国語教育研究者に配布)(2013/3)

◆その他社会連携企画(主な企画)

1. アカデミックウォッチング漢字で巡る京都の名所—白川文字学・体験型漢字講座—, 京都, 2012/11/18, 40名

2. 災害復興支援「漢字で元気に」:

1) 「福島—漢字探検隊—漢字あそび大会2012」, 福島県福島市, 2012/10/7・8, 100名

2) 「漢字ジェスチャー」, 宮城県門田市(横倉小学校・北郷小学校・枝野小学校・角田小学校), 2012/10/9・10

3) 「大船渡漢字探検隊—漢字あそび大会」, 岩手県大船渡市, 2012/10/12-14, 140名

3. 一般向け漢字講座, 兵庫県和田山公民館, 2012/5~12(全7回)

4. 第3回創作漢字コンテスト, 共催: 産経新聞, 2012/11

(参考URL: http://www.sankeisquare.com/event/kanjicontest_3rd/)

5. 教員免許状更新講習「漢字をどう教えるか」, 京都立命館大学衣笠キャンパス, 2012/8, 受講者80名

6. 国際平和ミュージアム連携企画「平和ってなに色 文字・活字 文化の日特別企画」, 京都立命館大学衣笠キャンパス 2012/10~11

◆漢字探検隊

地域	回	実施年月	テーマ	講座名	参加申込	場所
京都	31	2012. 5	動物	動物園で漢字と出会う	99	京都市動物園
	32	2012. 9	人体	漢字ジェスチャー大会①	20	立命館大学朱雀キャンパス
	33	2013. 1	人体	漢字ジェスチャー大会②	94	立命館大学朱雀キャンパス
	34	2013. 3	—	漢字あそび大会	320	立命館大学朱雀キャンパス
滋賀・ 草津	3	2012. 5	水棲動物	琵琶湖で漢字と出会う	62	滋賀県立琵琶湖博物館
	4	2012. 12	道具・家屋	草津宿で漢字と出会う	31	草津宿街道交流館・草津宿本陣
東京	16	2011. 7	数	数と漢字	20	フォレスト本郷
茨城・ つくば	3	2012. 4	酒造り	お酒と漢字	30	稲葉酒造場
	4	2012. 5	植物	植物と漢字	60	筑波実験植物園
	5	2012. 7	神	神と漢字	65	筑波山神社
	6	2012. 9	農業	食と農と漢字	65	食と農の科学館
	7	2012. 12	人体	漢字ジェスチャー大会	50	吾妻交流センター
香川	1	2012. 7	神	神と漢字	50	富田神社(さぬき市)
	2	2013. 3	神	神と漢字	50	浪打八幡神社(三豊市)
	3	2013. 3	神	神と漢字	32	三谷八幡宮(高松市)
福島	2	2012. 10	—	漢字あそび大会	100	福島テルサ(福島市)
岩手	1	2012. 10	—	漢字あそび大会	140	リアスホール(大船渡市)

以上